

# アンケート調査による大学生の国名認識

林 正 久\*

---

Masahisa HAYASHI  
Student's Geographical Understanding of the Names  
and Locations in the World Countries

---

**Abstract:** Questionnaire on the names and locations of world countries were distributed to about 550 students to estimate the sense of geographical understanding of the world. The results through questionnaires are summarized as follows;

Students correctly demarcated 55 countries on an average among all countries of the world; 19 countries in Asia, 9 in America, 6 in Africa, 2 in Oceania, 19 in Europe, respectively. Their interest and concern were mainly toward Asian and European countries, although African and Latin American countries were poorly distinguished. The numbers of demarcated countries were significantly different between male and female students; the former beyond 60 countries on an average, the latter 43. Students who had already learned Geography in the senior high schools always marks more in number of countries than those who had not learned Geography. This indicates that the student's ability to recognize the world countries is strongly dependent on the experience of learning Geography during high school age. It is afraid that the change of preliminary examination for admission to college should cause the decrease in number of students who should experience in learning Geography in senior high schools.

## 1. はじめに

現在は国際化社会といわれ、わが国でも国際間の相互理解の重要性や海外で活躍できる人材の育成が強く要請されている。中学校・高校の社会科地理における世界地理・地誌の学習はこうした要請にたいして効果をあげているであろうか。また、テレビ・新聞などマスコミによって報道される国際情報や海外渡航機会の増加によって生徒・学生は世界の国々にたいする知識や理解をどの程度身につけてきているであろうか。

このような観点から最近の数年間、筆者の所属する教育学部の大学生を中心に白地図に描いた世界の国名とその位置をあてさせるアンケート調査を実施して国名認識力についての評価を検討してきた。もちろん、国名の認知だけが地理的な学力ではないし国際的理解力の度合を

計る尺度でもない。大谷（1984）の地名暗記地理に対する批判もある。しかし、国名やその正しい位置を知るということは世界を理解するうえで最も初歩的、基本的な能力であり、生徒・学生の地誌的な学力、国際感覚の一側面を示すと考えられる。特に教員養成学部 of 学生にとっては、正井（1986）も述べているように国名についての最小限の知識は必要であろう。

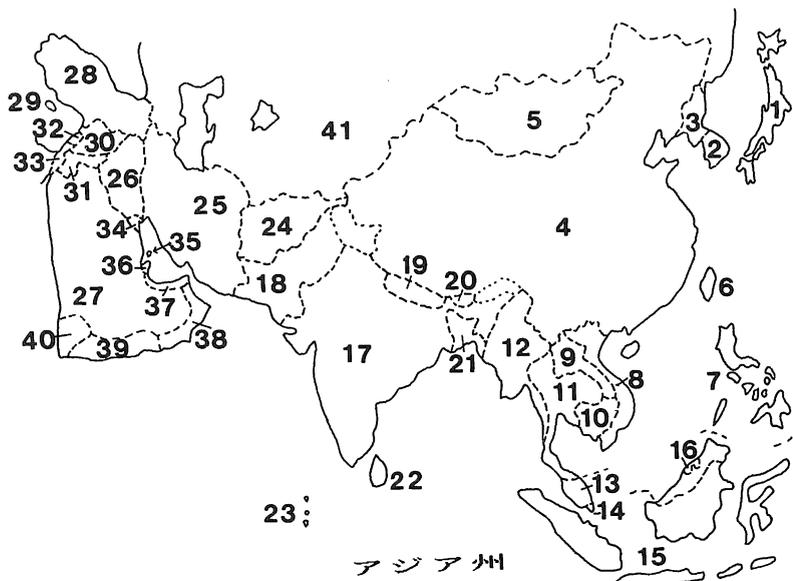
世界の国名知識についての調査は山口（1979）、長崎（1987）など中学・高校生についての報告はあるが大学生に対する調査はあまり行われていない。本報告では大学生を中心とする生徒・学生の国名認識力の実態と問題点について明らかにしてみたい。

また、最近数年間の国名認識力の動向についても検討を行った。その理由としては、最近の大学生は昭和57年の高校の指導要領の改訂や大学入試制度の改革など大きな変革を経験してきており、社会科についていえば、昭

\* 島根大学教育学部地理学

和54年度から導入された共通一次テストで受験科目が社会科が二科目と指定されたこと、昭和60年度の入試から『現代社会』が必須科目となり、『高校新地理』が設定されたこと、また、昭和62年度の大学入試から社会科が一科目になり、配点も100点に削減されたことなど、社会科の激動期に高校生活を送ってきており、これらの変革が

高校の社会科に与えた影響、さらにはそのことが地理の学習効果にどのような影響を与えたかを推測できるからである。



- ☆各州毎の縮尺は異なる。
- ☆一部の島々は拡大してある。
- ☆番号が異なっても同じ国がある。
- ☆番号のない所は国境係争地又は植民地

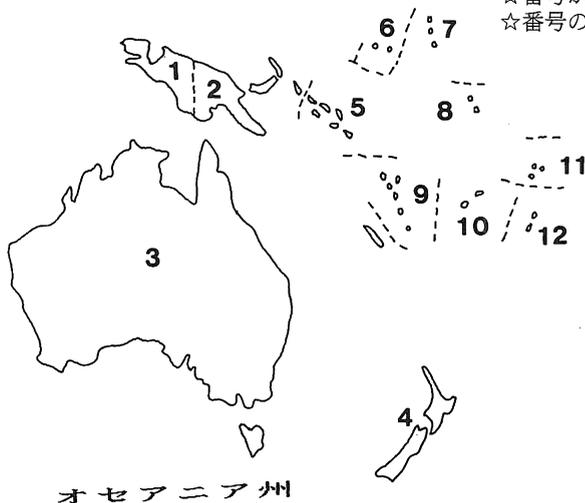


図1 国名テスト調査用問題用紙 (縮小したもの)

## 2. 調査対象と調査方法

アンケート調査は昭和59年から63年の間に主として筆者が島根大学教育学部で開講する『概説』の授業の受講者を対象に実施した。従って各年の調査対象者の数は異なる。同時に、短期間ながら授業を行った島根医科大、

島根大学法文学部の学生、米子高専の生徒も調査対象とした。なお、一部には個人的に依頼した者もいる。

調査対象者の総数は549名でその内訳は島根大学教育学部学生277名、同法文学部・理学部生9名、島根医科大生177名、米子高専生徒83名、一般社会人3名である。島根大学学生は2～4年生(中心は2～3年生)、医科大生

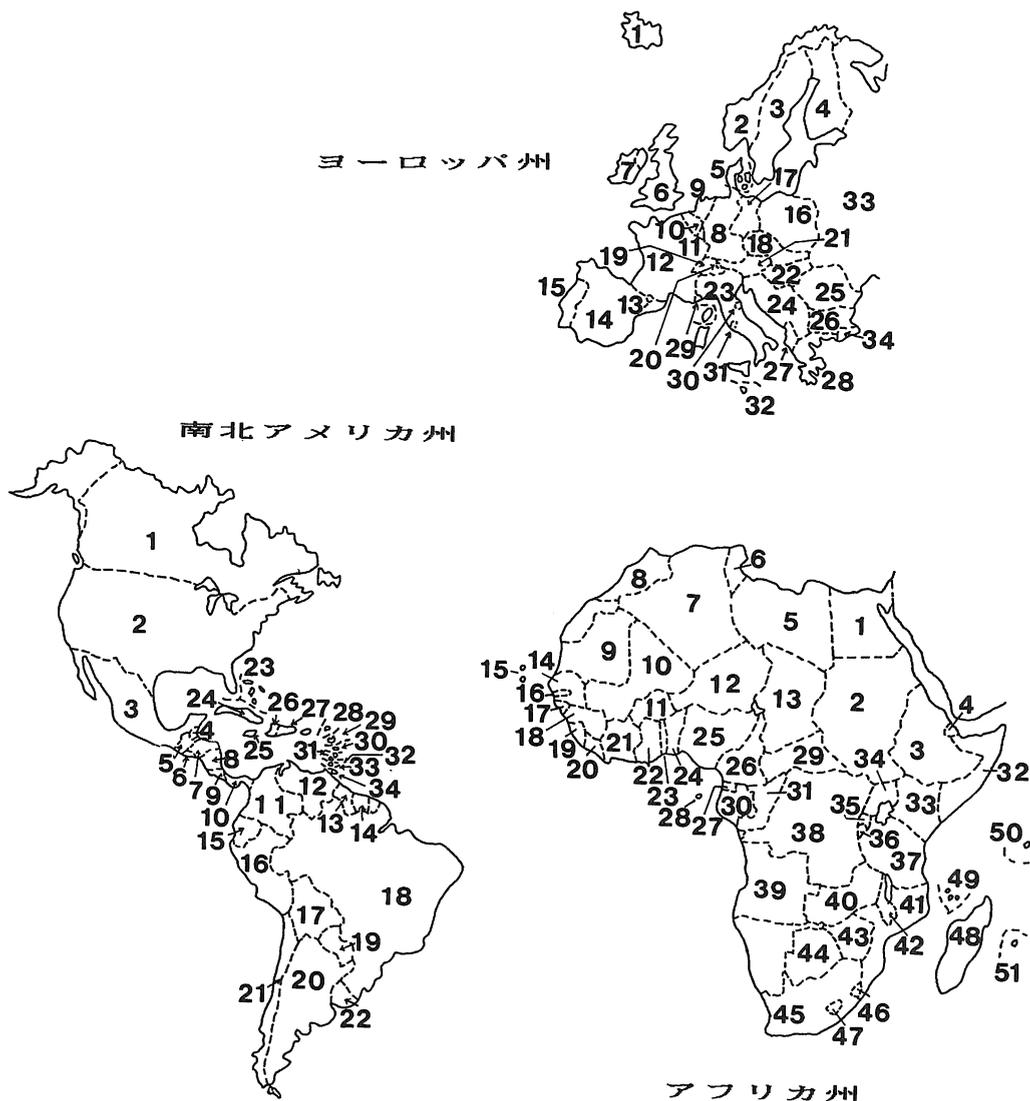


表1 調査対象者と平均国名正解数

実施年度	対象	性別	人数	平均正解数						最高	最低	標準偏差	
				アジア	アメリカ	アフリカ	オセアニア	ヨーロッパ	合計				
1984	一般社会人	男性	1	39	24	15	7	27	112	—	—	0	
		女性	2	20.5	8.5	4.0	2.5	17.5	53				54
一般社会人計			3	26.7	13.7	7.7	4.0	20.7	72.7	112	52	27.8	
1984	高専生徒	男性	82	18.0	8.1	5.6	2.2	16.5	50.4	107	18	18.0	
		女性	1	17	8	4	3	17	49				—
全高専生徒計			83	17.9	8.1	5.6	2.2	16.5	50.4	107	18	17.9	
1984	医科大学生	男性	18	25.3	11.2	9.6	2.9	22.3	71.8	101	38	19.6	
1985	医科大学生	女性	5	19.0	8.8	5.8	2.0	22.6	58.2	74	44	12.0	
		計	16	25.3	12.4	9.8	2.7	24.2	74.3	118	38	23.8	
1986	医科大学生	男性	3	13.7	7.0	1.7	2.0	12.3	36.7	50	24	10.6	
		女性	68	22.3	9.2	6.5	2.3	19.9	60.1	118	22	22.5	
1987	医科大学生	男性	28	16.7	7.1	3.6	2.1	15.5	44.9	81	19	14.7	
		女性	35	21.2	8.8	6.3	2.2	18.9	57.3	106	18	20.4	
医科大学生計			4	26.0	9.8	8.0	2.8	26.5	73.0	88	50	14.1	
医科大学生 男性計			137	22.8	9.7	7.2	2.4	20.5	62.5	118	18	22.6	
医科大学生 女性計			40	17.7	7.6	4.2	2.2	17.3	48.8	81	19	17.0	
全医科大学生計			177	21.6	9.2	6.5	2.3	19.7	59.4	118	18	22.2	
1984	法文・理学生	男性	7	24.3	10.0	8.1	2.1	19.7	64.3	100	39	23.2	
		女性	2	13.0	6.0	3.0	2.0	17.5	41.5				51
法文・理学生計			9	21.8	9.1	7.0	2.1	19.2	59.2	100	32	23.0	
1984	教育社会科学学生	男性	33	26.4	11.5	8.5	3.0	25.5	74.9	114	34	19.2	
		女性	16	19.9	8.8	5.3	2.2	20.4	56.6				92
1985	教育社会科学学生	男性	25	19.2	7.9	3.9	2.2	19.3	52.5	108	27	34.1	
		女性	32	15.6	7.3	3.7	2.0	15.3	44.9				90
1986	教育社会科学学生	男性	6	19.8	10.7	8.8	2.7	18.2	60.2	136	18	26.3	
		女性	17	18.8	8.9	6.7	2.4	18.4	55.2				136
1987	教育社会科学学生	男性	15	17.9	8.3	4.6	2.3	17.5	50.5	114	34	19.2	
		女性	14	15.0	7.1	3.1	1.9	14.6	41.8				95
1988	教育社会科学学生	男性	18	22.7	9.7	7.8	2.8	21.3	64.2	110	25	22.6	
		女性	9	17.4	8.0	3.8	2.0	18.8	50.0				63
1989	教育社会科学学生	男性	8	21.1	8.4	6.6	2.3	18.4	56.8	83	33	15.4	
		女性	16	13.9	6.2	2.9	1.9	13.4	38.3				62
1990	教育社会科学学生	男性	6	17.3	7.3	2.0	1.8	16.5	45.0	56	37	8.0	
		女性	13	20.3	7.3	3.6	2.2	16.2	49.6				72
1991	教育社会科学学生	男性	4	18.3	8.0	3.8	2.3	17.0	49.3	62	39	8.5	
		女性	4	12.5	6.3	3.8	1.5	17.8	41.8				55
1992	教育社会科学学生	男性	18	19.9	9.4	5.2	2.6	19.6	56.7	99	22	20.4	
		女性	9	17.3	6.9	2.6	1.9	13.8	42.4				51
教育社会科学学生計			11	12.9	5.4	2.2	2.1	8.7	31.3	52	16	10.7	
教育学部社会科学学生男性計			81	23.0	10.2	7.2	2.8	22.0	65.2	114	22	23.1	
教育学部社会科学学生女性計			64	19.0	8.2	4.7	2.2	17.3	51.9	136	18	17.3	
教育学部社会科学学生全体			145	21.2	9.3	6.1	2.5	20.2	59.3	136	18	21.8	
教育社会科学以外学生男性計			55	18.8	8.1	4.5	2.2	18.3	51.9	114	28	15.5	
教育社会科学以外学生女性計			77	15.0	6.7	3.2	1.9	14.0	40.8	95	11	18.4	
教育社会科学以外学生全体			132	16.6	7.3	3.8	2.1	15.8	45.5	114	11	18.1	
教育学部学生 男性計			136	21.3	9.4	6.1	2.5	20.5	59.8	114	22	21.4	
教育学部学生 女性計			141	16.8	7.4	3.9	2.0	15.7	45.9	136	11	18.7	
教育学部学生 全体			277	19.0	8.4	5.0	2.3	18.1	52.7	136	11	21.3	
全	男	性	計	363	21.2	9.3	6.5	2.4	19.6	58.9	118	18	21.9
				186	17.0	7.4	3.9	2.1	16.1	46.5	136	11	18.2
全体合計			549	19.8	8.6	5.6	2.3	18.4	54.7	136	11	21.5	

は一年生だけである。高専生徒は一年生で地理受講後の2月に実施した。

調査した項目は、世界の白地図（国境だけ記入）を州毎に示し、その国名を別紙に解答させる方法を採用した。白地図に印した国は1983年『日本国勢図会』により、1983年3月末の世界のすべての独立国とし、州毎に若干加筆した。アジア州は独立国38と台湾・ソ連及び1984年1月に独立予定であったブルネイを併せて41ヶ国。南北アメリカ州は独立国34ヶ国（1983年9月に独立したセントクリストファー・ネイビスを除く）。アフリカ州は独立国51ヶ国。オセアニア州は独立国11とニューギニア島の西イリアンをインドネシア領として、併せて12ヶ国。ヨーロッパ州はソ連を含む独立国32とアンドラ及びトルコを併せて34ヶ国。合計172ヶ国についてすべて国名で解答させた。図1に172ヶ国の白地図を示す。

記入された国名のうち一般的な呼称や略称は正解とした。例えばイギリス、ソ連、アメリカ、西ドイツ、北朝鮮、中華民国、北イエメン、チェコ、バングラ、ユーゴ、南ア、ニューギニア、セイロンなどは正解として集計した。また、表記についてもあまり厳格には判定せず、クエート、ガテマラ、ベネゼラ、アルゼリア、ソマリヤ、ヴァチカンなども正解とした。ただし独立前の通称や一般的でない呼称、例えば南朝鮮、北朝鮮民主主義人民共和国、北ベトナム、ローデシア、象牙海岸などは正解には加えていない。

また、大学生については高校で履修した社会科の科目

と大学入試で受験した社会科の科目をすべて記入させ、何れかの場合に地理の名をあげた者を高校地理既履修者とし、他を未履修者として識別した。なお、前もって予習などを行ってこないことがないように、調査は予告をせず抜打ち的に実施し、解答時間は50分以内とした。

### 3. 対象者別にみる国名認識力

#### (1) 所属別・性別にみた国名認識力

アンケート対象者数と平均国名正解数を表1に示す。統計処理を行う上で人数の少ない集団を除外し、調査対象者を次のような範疇に分類して考察を行った。調査対象者全員、高専生徒、大学生、医科大生、島根大学生、島根大学教育学部生、島根大学教育学部社会科専攻生、島根大学教育学部社会科以外の学生の8つで、それぞれの集団はより大きな集団に含まれる。

全対象者の国名正解数の階級頻度分布を図2に掲げる。分布図にみられるよう比較的きれいな正規分布の型をなしている。最高正解数は136ヶ国、最低は11ヶ国で、ともに女子大学生であった。100ヶ国以上に正解した者は23名あったがそのうち22名は男子で、世界の国名について趣味的な興味をもっているようである。

全調査対象者の平均国名正解数は日本を含めて約55ヶ国であった。詳しい分析は省くが、隣接国同士の国名の混同や、国名がわかかっていても位置がまったく違っているもの、国名の代わりに首都などの都市名を記入してい

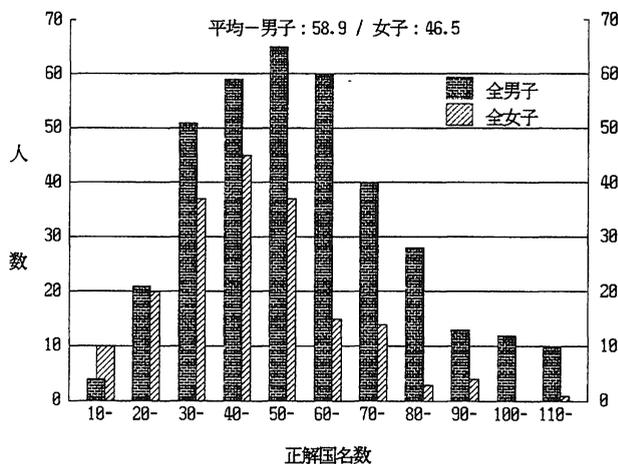


図2 国名正解数の階級別分布（全対象者）

るものについて集計してみると、平均してアジアで3.9、アメリカ州で1.2、アフリカで3.0、オセアニアで0.5、ヨーロッパで3.7となっており、平均国名正解数55ヶ国の他に10ヶ国程度は何らかの潜在的な地名情報を獲得しているものと思われる。日本の国名を記入していない者が2名いたが、ほとんどの調査対象者は協力的で一生懸命に答えてくれた。

表1に示したように、国名正解数は所属や年次によってかなりの差異が認められるが、全体として次のことがいえるであろう。大学生は高専生より10ヶ国程度多くの国名とその位置を正しく理解している(図3)。女子大学生の国名正解数の頻度分布は高専生徒のそれとよく似た傾

向を示し、全体として女性より男性の方が平均して10ヶ国以上多くの国名知識を有しているものと思われる。また、教育学部の中で社会科学系は全員が地理学の専攻生ではないが平均国名正解数が多い集団といえる。逆に社会科学以外の教育学部男子は国名正解数が少なく、医科大、社会科学男子との間にも有意な差が出ている。

表2は男女別の平均国名正解数とその標準偏差からそれぞれの集団の平均正解数に有意差があるかどうかを検証したものである。その結果、全ての集団について男女間の平均国名正解数に明らかな差異が認められる。ただし、高専生徒と女子学生との間には有意差はないといえる。こうした地理的な認識力について女子が男子よりや

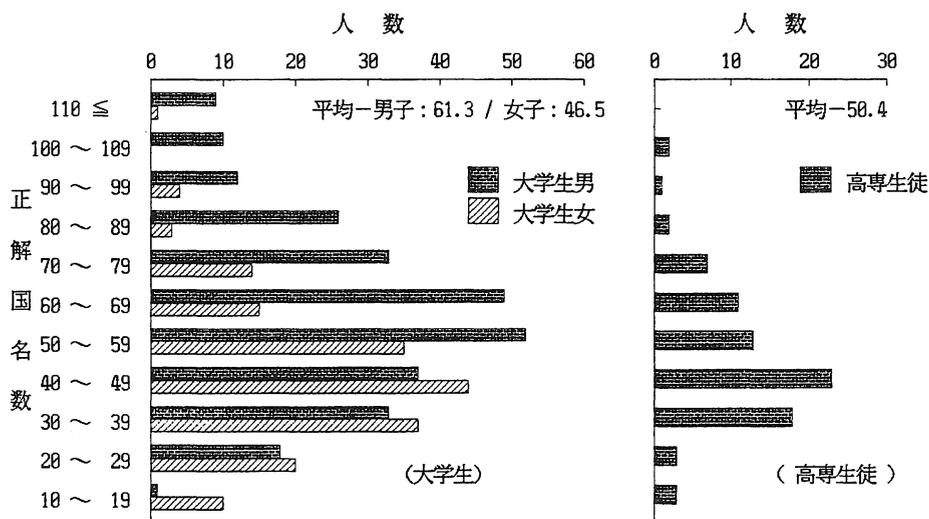


図3 国名正解数の階級別分布(大学・高専生)

表2 性別にみる国名正解数の平均値分析

	人数	平均値								
		全男子	大学生男子	高専男子	医科大男子	島根大男子	教育学部男子	社会科学男子	社会科学以外男子	
	正解数	58.9	61.3	50.4	62.5	60.0	59.8	65.2	51.9	
全女子	186	46.5	7.043 ***	7.883 ***	1.626	6.813 ***	6.028 ***	5.864 ***	6.463 ***	2.177 *
大学生女子	183	46.4	7.036 ***	7.874 ***	1.660	6.821 ***	6.039 ***	5.876 ***	6.476 ***	2.208 *
医科大女子	40	48.8	3.457 ***	4.176 ***	0.478	4.140 ***	3.465 ***	3.382 ***	4.414 ***	0.911
島根大女子	143	45.8	6.764 ***	7.585 ***	1.818	6.725 ***	5.966 ***	5.816 ***	6.459 ***	2.339 *
教育学部女子	141	45.9	6.661 ***	7.484 ***	1.771	6.653 ***	5.893 ***	5.745 ***	6.405 ***	2.291 *
社会科学女子	64	51.9	2.864 ***	3.717	0.511	3.660 ***	2.884 **	2.790 **	3.966 ***	0.000
社会科学以外女子	77	40.8	7.558 ***	8.259 ***	3.315 ***	7.601 ***	6.942 ***	6.812 ***	7.355 ***	3.745 ***

正規分布uの表より \*\*\* 0.1%水準で有意差あり / \*\* 1%水準で有意差あり / \* 5%水準で有意差あり

表3 高校地理既履修・未履修別対象者と平均国名正解数

実施年度	対 象	性別	人 数	平 均 正 解 数						標準偏差
				ア ジ ア	アメリカ	アフリカ	オセアニア	ヨーロッパ	合 計	
1984	医科大学生	男	17( 1)	26.1(12.0)	11.5(6.0)	9.9(4.0)	2.9(2.0)	22.8(14.0)	73.3(38.0)	18.3( 0 )
		女	5( 0)	19.0( - )	8.8( - )	5.8( - )	2.0( - )	22.6( - )	58.2( - )	12.0( - )
1985	医科大学生	男	15( 1)	25.5(22 )	12.8(7 )	10.1( 5 )	2.7( 2 )	24.3(22 )	75.4(58 )	24.2( 0 )
		女	1( 2)	18 (11.5)	8 (6.5)	2 (1.5)	2 (2.0)	20 ( 8.5)	50 (30.0)	0 ( 6.0)
1986	医科大学生	男	39(29)	25.1(18.4)	10.7(7.2)	8.1(4.3)	2.5(2.0)	22.4(16.5)	68.8(48.4)	22.5(16.4)
		女	10(18)	20.0(14.8)	9.5(5.7)	5.7(2.4)	2.6(1.8)	21.3(12.3)	59.1(37.1)	10.6(10.0)
1987	医科大学生	男	16(19)	23.9(18.9)	10.5(7.3)	8.0(4.8)	2.4(1.9)	23.0(15.0)	67.9(48.5)	21.0(15.0)
		女	3( 1)	25.0(29 )	10.3(8 )	8.3(7 )	3.0( 2 )	25.7(29 )	72.3(75 )	16.2( 0 )
医科大学生 男性 小計			87(50)	25.2(18.6)	11.2(7.2)	8.8(4.5)	2.6(2.0)	22.9(16.2)	70.7(48.4)	22.0(15.7)
女性 小計			19(21)	20.4(15.2)	9.4(5.9)	5.9(2.5)	2.5(1.9)	22.3(12.7)	60.5(38.2)	13.0(12.7)
医科大学生全体			106(71)	24.3(17.6)	10.9(6.8)	8.3(3.9)	2.6(1.9)	22.8(15.1)	68.8(45.4)	21.0(15.6)
1984	法文理学生	男	7( 0)	24.3( - )	10.0( - )	8.1( - )	2.1( - )	19.7( - )	64.3( - )	23.2( - )
		女	1( 1)	9 (17 )	6 ( 6 )	3 ( 3 )	2 ( 2 )	12 (23 )	32 (51 )	0 ( 0 )
法文理学生小計			8( 1)	22.4(17 )	9.5(6 )	7.5(3 )	2.1( 2 )	18.8(23 )	60.3(51 )	24.2( 0 )
1984	教育社会科学学生	男	31( 2)	27.0(16.5)	11.6(9.5)	8.7(5.0)	3.1(2.0)	25.7(22.0)	76.2(55.0)	18.8(13.0)
		女	14( 2)	20.5(16.0)	9.0(7.5)	5.5(3.5)	2.2(2.0)	21.4(13.5)	58.6(42.5)	13.8( 5.5)
	教育社会科以外	男	23( 2)	18.9(22.5)	7.8(8.5)	4.0(3.0)	2.1(3.0)	19.0(22.0)	51.9(59.0)	13.3( 7.0)
		女	26( 6)	17.5(13.0)	7.8(5.0)	4.0(2.3)	2.0(1.7)	16.1(12.0)	47.4(34.0)	20.6(11.2)
1985	教育社会科学学生	男	5( 1)	21.4(12 )	11.2(8 )	10.2(2 )	2.8( 2 )	19.2(13 )	64.8(37 )	35.6( 0 )
		女	14( 3)	19.0(18.0)	9.0(8.7)	7.5(3.0)	2.5(2.0)	18.4(18.3)	56.4(50.0)	28.7( 7.8)
	教育社会科以外	男	13( 2)	19.0(10.5)	8.8(5.0)	5.0(2.0)	2.3(2.0)	18.2(13.0)	53.3(32.5)	19.6( 3.5)
		女	11( 3)	16.5( 9.7)	7.5(5.7)	3.7(0.7)	2.0(1.7)	16.2( 9.0)	45.9(26.7)	21.4(12.3)
1986	教育社会科学学生	男	14( 4)	24.7(15.5)	10.6(6.5)	9.4(2.3)	2.9(2.3)	23.6(13.0)	71.3(39.5)	19.5(13.5)
		女	5( 4)	17.8(17.0)	8.8(7.0)	4.4(3.0)	1.8(2.3)	19.4(18.0)	52.2(47.3)	8.3( 5.6)
	教育社会科以外	男	7( 1)	22.4(12.0)	8.9(5.0)	7.3(2.0)	2.3(2.0)	19.1(13.0)	60.0(34 )	13.6( 0 )
		女	9( 7)	15.1(12.3)	7.1(5.0)	3.0(2.7)	1.9(1.9)	14.1(12.6)	41.2(34.4)	15.2(12.5)
1987	教育社会科学学生	男	0( 6)	- (17.3)	- (7.3)	- (2.0)	- (1.8)	- (16.5)	- (45.0)	- ( 8.0)
		女	5( 8)	22.8(18.8)	8.4(6.6)	5.0(2.8)	2.4(2.1)	21.2(13.0)	59.8(43.3)	9.4( 8.0)
	教育社会科以外	男	2( 2)	20.5(16.0)	9.0(7.0)	5.0(2.5)	2.5(2.0)	19.5(14.5)	56.5(42.0)	5.5( 3.0)
		女	2( 2)	17.5( 7.5)	6.5(6.0)	6.0(1.5)	2.0(1.0)	21.5(14.0)	53.5(30.0)	1.5(13.0)
1988	教育社会科学学生	男	6(12)	20.7(19.6)	9.5(9.3)	4.7(5.5)	2.8(2.4)	20.8(19.0)	58.5(55.8)	21.2(20.0)
		女	1( 8)	15 (17.6)	6 (7.0)	2 (2.6)	2 (1.9)	8 (14.5)	33 (43.6)	0 ( 5.5)
	教育社会科以外	男	1( 2)	22 (11.0)	11 (6.5)	8 (3.5)	3 (2.0)	19 (13.0)	63 (36.0)	0 ( 8.0)
		女	5( 6)	13.6(12.3)	5.2(5.5)	2.6(1.8)	2.0(2.2)	10.6( 7.2)	34.0(29.0)	12.9( 7.6)
教育学部社会科学学生男性計			56(25)	25.3(17.8)	11.1(8.4)	8.6(4.0)	3.0(2.2)	24.1(17.4)	72.0(49.8)	22.0(17.3)
女性計			39(25)	19.8(17.8)	8.8(7.1)	5.9(2.8)	2.3(2.0)	19.7(15.0)	56.5(44.8)	20.1( 7.1)
教育学部社会科学学生全体			95(50)	23.0(17.8)	10.1(7.7)	7.5(3.4)	2.7(2.1)	22.3(16.2)	65.6(47.3)	22.6(13.5)
教育社会科以外学生男性計			46( 9)	19.6(14.7)	8.4(6.6)	4.9(2.7)	2.2(2.2)	18.8(15.3)	54.0(41.4)	15.4(11.4)
女性計			53(24)	16.5(11.8)	7.4(5.3)	3.7(2.0)	2.0(1.8)	15.5(10.8)	45.0(31.6)	19.4(11.5)
教育社会科以外学生全体			99(33)	17.9(12.5)	7.8(5.6)	4.3(2.2)	2.1(1.9)	17.0(12.0)	49.2(34.3)	18.2(12.3)
教育学部学生 男性 計			102(34)	22.7(17.0)	9.9(7.9)	6.9(3.6)	2.7(2.2)	21.7(16.9)	63.9(47.6)	21.3(16.3)
女性 計			92(49)	17.9(14.8)	8.0(6.2)	4.6(2.4)	2.1(1.9)	17.2(12.9)	49.9(38.3)	20.5(11.6)
教育学部学生 全 体			194(83)	20.4(15.7)	9.0(6.9)	5.9(2.9)	2.4(2.0)	19.6(14.5)	57.2(42.1)	22.1(14.5)
全学生 男性 計			196(84)	23.9(17.9)	10.5(7.5)	7.8(4.1)	2.6(2.1)	22.2(16.5)	66.9(48.1)	21.9(16.0)
女性 計			112(71)	18.2(15.0)	8.2(6.1)	4.8(2.5)	2.2(1.9)	18.0(13.0)	51.5(38.5)	19.8(11.9)
全 学 生 合 計			308(155)	21.8(16.6)	9.6(6.9)	6.7(3.4)	2.5(2.0)	20.7(14.9)	61.3(43.7)	22.5(15.0)

★ ( ) 内は未履修学生の値

や不得手であるという結果になったことについて理由ははっきりとしないが、正井（1988）がいうように地理学専攻学生は男性優勢で、中学、高校の社会科教師も男性が多いこと、権田（1988）が女子大の入試は地理の不毛地帯であると指摘していること、また最近5年間（1983～1987）の西南日本各大学の地理学卒業論文題目からみた地理卒業生に占める女性の割合は、それぞれ22%、30%、29%、28%、26%、女子が多いといわれる教員養成学部だけをとっても、それぞれ26%、37%、38%、31%、36%<sup>(1)</sup>とあまり多くないことなどから、一般的に地理の好きな女子は少ない、あるいは女子は地理的分野が苦手であるということがいえる。

(2) 高校における地理の履修と国名認識

共通一次試験の実施以降、高校で地理を履修しなかつ

たという学生の存在が多くみられるようになった。そこで、高校で地理を履修したか否かを基準として国名正解数に違いがあるかどうかを分析してみた。表3はアンケート調査中の大学生463名に限って高校地理の既履修・未履修者別にそれぞれ平均国名正解数を集計したものである。

各集団毎に既履修・未履修者別の国名正解数の平均値分析を行った結果を表4に示す。それぞれの既履修者と未履修者の国名正解数には0.1%水準で有意な差が認められ、既履修者の方が15～20ヶ国程度多くの国々を識別できるということがいえる。

地理の履修と性別とを考慮した国名正解数の平均値分析も行ってみた。その結果を表5～7に示す。いずれの場合も明らかに既履修者の国名正解数が多いということを示唆している。また、同じ既履修者の中でもやはり性

表4 高校地理既履修・未履修別にみる国名正解数の平均値分析

	人数		既履修全学生	既履修医科大生	既履修島根大生	既履修教育学部生	既履修社会科学学生	既履修社会科学以外学生
	人数	正解数	308	106	202	194	95	99
未履修全学生	155	43.7	10.000 ***	10.578 ***	6.943 ***	6.773 ***	8.378 ***	2.506 *
未履修医科大生	71	45.4	7.072 ***	8.495 ***	4.961 ***	4.846 ***	6.813 ***	1.460
未履修島根大生	84	42.2	9.417 ***	10.317 ***	6.860 ***	6.716 ***	8.352 ***	2.898 **
未履修教育学部生	83	42.1	9.411 ***	10.318 ***	6.871 ***	6.728 ***	8.361 ***	2.928 **
未履修社会科学学生	50	47.3	6.105 ***	7.702 ***	4.104 ***	3.997 ***	6.101 ***	0.719
未履修社会科学以外学生	33	34.3	10.824 ***	11.659 ***	8.719 ***	8.596 ***	9.919 ***	5.287 ***

正規分布uの表より \*\*\* 0.1%水準で有意差あり / \*\* 1%水準で有意差あり / \* 5%水準で有意差あり

表5 高校地理既履修・未履修別男子学生にみる国名正解数の平均値分析

	人数		既履修全男性	既履修医科大男性	既履修島根大男性	既履修教育学部男性	既履修社会科学男性	既履修社会科学以外男性
	人数	平均点	196	87	109	102	56	46
未履修全男性	84	48.1	8.024***	7.712***	5.868***	5.775***	6.984***	2.064 *
未履修医科大男性	50	48.4	6.812***	6.891***	5.128***	5.063***	6.400***	1.766
未履修島根大男性	34	47.6	6.007***	6.306***	4.689***	4.644***	5.999***	1.775
未履修社会科学男性	25	49.8	(13.949***)	(18.849***)	(9.241**)	(9.278**)	(19.401***)	(1.075 )
未履修社会科学以外男性	9	41.4	( …… )	( …… )	( …… )	( …… )	( …… )	( 5.267 * )

正規分布uの表より \*\*\* 0.1%水準で有意差あり / \*\* 1%水準で有意差あり / \* 5%水準で有意差あり  
但し対象者が30名以下の場合にはF-分布検定を行った。

( ) ……F-分布検定によって分散が均一の場合についてt-検定をおこなった結果。

(… ) ……F-分布検定によって分散に有意の差がみられるもの。

別の差が認められ、男子の方が女子より10～15ヶ国多くの国名を知っていることがわかる。表には示していないが未履修の男子学生と既履修の女子学生とを比べてみると、ほとんど差異がなく、一部の集団では女子の方が国名正解数が多いといえる例もある。

以上のことをまとめていえば、当然のことながら高校の地理の学習は地図帳や教科書を通じて国名認識力の向上に成果をあげているといえる。また、国名正解数からみると地理を履修した男子が最も多く、履修した女子、履修していない男子とつづき、地理を履修しなかった女子の正解数が最も少ないといえる。特に女子の場合、地理を学習することによって学習していない男子と同程度の正解数になるという事実からみて、高校の地理の学習

は男子の場合以上に女性に対して必要ではないかと思われる。

#### 4. 大学生にみる国名認識の年次変化

国名正解数が年度毎にどのように変化してきたかを考察してみたい。対象者全体のうち単位認定の関係で二度以上アンケートに答えた学生が10名いる。最初の時と二度目を比べてみると、2名が20%程正解数を増加させ、残り8名は10%以内の減少であった。また10名の平均国名正解数は一度目と二度目でまったく同じという結果を得た。このことは、全体としてみれば国名認知力は年間程度ではほとんど変化せず大学入学時から変わらない

表6 高校地理既履修男子学生と未履修女子学生にみる国名正解数の平均値分析

	既履修全女性		既履修医科大女性	既履修島根大女性	既履修社会科女性	既履修社会科以外女性	
	人数	平均点					
未履修全女性	71	38.5	5.533 ***	(47.884 ***)	4.378 ***	4.444 ***	5.124 ***
未履修医科大女性	21	38.2	(.....)	(28.579 ***)	(.....)	(.....)	(.....)
未履修島根大女性	50	38.6	5.177 ***	(44.466 ***)	4.135 ***	4.192 ***	4.959 ***
未履修社会科女性	25	44.8	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)
未履修社会科以外女性	24	31.6	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)

正規分布uの表より \*\*\* 0.1%水準で有意差あり / \*\* 1%水準で有意差あり / \* 5%水準で有意差あり  
 但し対象者数が30名以下の場合はF-分布検定を行った。  
 ( ) … F-分布検定によって分散が均一の場合についてt-検定をおこなった結果。  
 (… ) … F-分布検定によって分散に有意の差がみられるもの。

表7 高校地理既履修学生の性別にみる国名正解数の平均値分析

	既履修全男性		既履修医科大男性	既履修島根大男性	既履修教育科男性	既履修社会科男性	既履修社会科以外男性	
	人数	平均点						
既履修全女性	112	51.5	6.303 ***	6.376 ***	4.460 ***	4.394 ***	5.871 ***	0.850
既履修医科大女性	19	60.5	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)	(.....)	(2.542)
既履修島根大女性	93	49.7	6.516 ***	6.619 ***	4.807 ***	4.743 ***	6.141 ***	1.384
既履修社会科女性	39	56.5	2.908 **	3.565 ***	1.940	1.925	3.555 ***	0.636
既履修社会科以外女性	53	45.0	7.072 ***	7.215 ***	5.610 ***	5.552 ***	6.790 ***	2.569 *

正規分布uの表より \*\*\* 0.1%水準で有意差あり / \*\* 1%水準で有意差あり / \* 5%水準で有意差あり  
 但し対象者数が30名以下の場合はF-分布検定を行った。  
 ( ) … F-分布検定によって分散が均一の場合についてt-検定をおこなった結果。  
 (… ) … F-分布検定によって分散に有意の差がみられるもの。

ということを示している。したがって、学年別の国名認識力の違いより大学入学年度の世代の違いを考慮してみる必要がある。

国名正解数の年次変化を表したものが図4である。島根大学教育学部生は昭和59～63年、島根医科大学生は昭和59年～62年についての値である。小さな変動はあるが、一見して、年とともに正解数が低下してきているように見える。

同じ年次変化を性別に示したものが図5である。サン

ブル数の少ない医科大女子の例を除くと、やはり小さな変動を伴いながら徐々に正解数が下がってきている様子が認められる。

こうした現象は学生の世代による学力の低下を示すものであろうか。このことを検証するために、既履修・未履修者別の年次変化を求めてみたのが図6である。昭和63年度の教育学部既履修者の国名正解数の低下が著しいことを除けばそれぞれの集団の年次変化はあまり大きくないといえる。

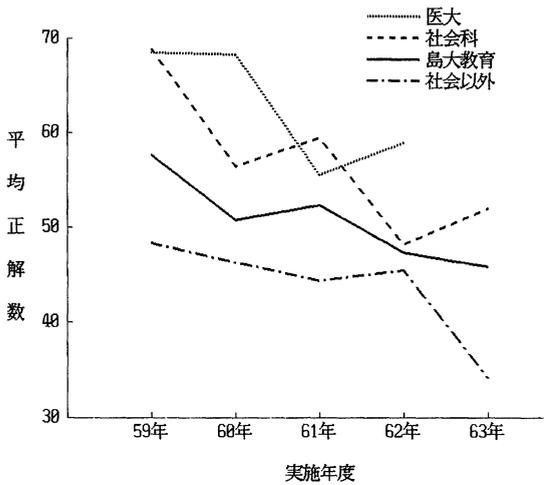


図4 平均国名正解数の年次変化

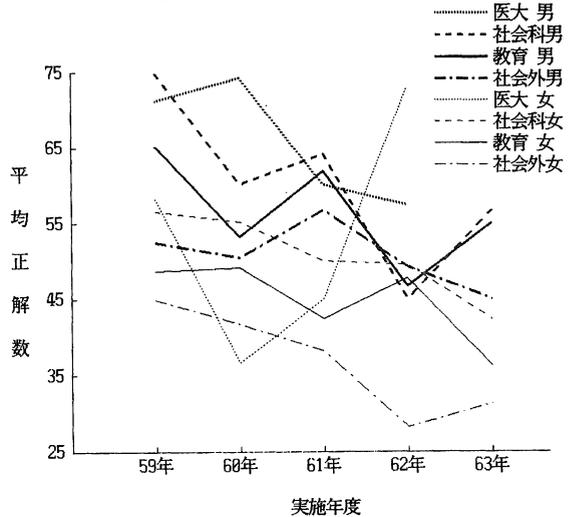


図5 性別にみた平均国名正解数の年次変化

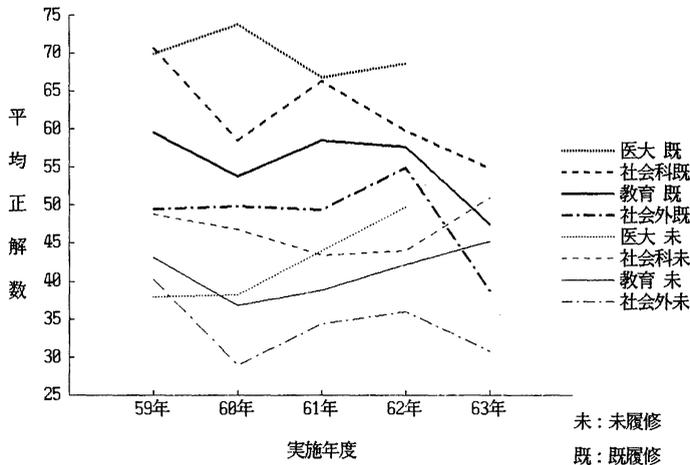


図6 高校地理既履修・未履修別にみた平均国名正解数の年次変化

そこで全対象者に占める既履修者・未履修者の割合の変化をみると(図7), 医科大では昭和61年, 教育学部では昭和62年からアンケート対象者に占める既履修者の割合が激減していることがわかる。そしてそのことが平均国名正解数の低下と非常にきれいに対応している。教育学部の調査対象者の大半は2年生, 3年生で, 入学年度は昭和60年, 61年である。つまり大学入試制度の変革によって, 社会科の受験科目で『現代社会』が必須科

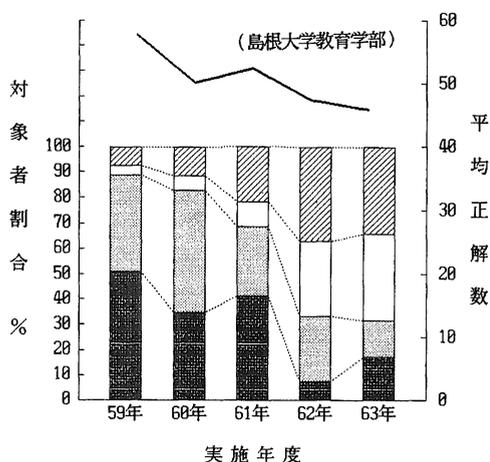
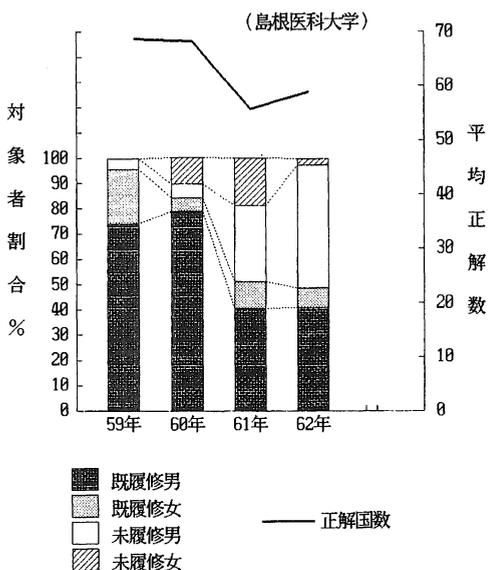


図7 高校地理既履修・未履修者数の比率と平均国名正解数の年次変化

目となったことを強く反映していることがうかがわれる。

このことを, 共通一次試験における社会科の科目別受験者数の変化からみると, 図8に示すように日本史, 世界史, 地理の受験生の割合は入試制度の変革にもかかわらず変動は小さくほとんど一定である。ということは調査対象学生は高校で地理を学習してきていない例外的な集団であろうか。実際に何人かの学生に問い正してみると, 高校によって国公立大学志望の生徒には共通一次対策のため, 社会科は必修の『現代社会』の他に2科目しか履修してきていない者が多く, 中には2年間かけて1科目しか履修してきていないという例もみられた。大学合格数を増加させるための高校におけるカリキュラムの変更が色濃く影響しているようである。

全国のいくつかの高校で地理の授業が行われ, 高校生の何%が地理の履修をしたかというデータは手元にはないが, かつては共通一次試験は地理で受験していなくても地理を履修してきた学生が多くみられたが, 入試改革後には共通一次試験を受験してきた大学生のうち, 高校で地理を学習していない学生の比率が増大してきていることは確実で, それによって国名正解数の平均が低下傾向を示すようになったといえる。ただし, 大学生の何割かに現役で入学していない者が含まれていることから, 昭和61年度入学した大学生からこうした現象が顕著になってきたものと思われる。入試科目が社会科1科目

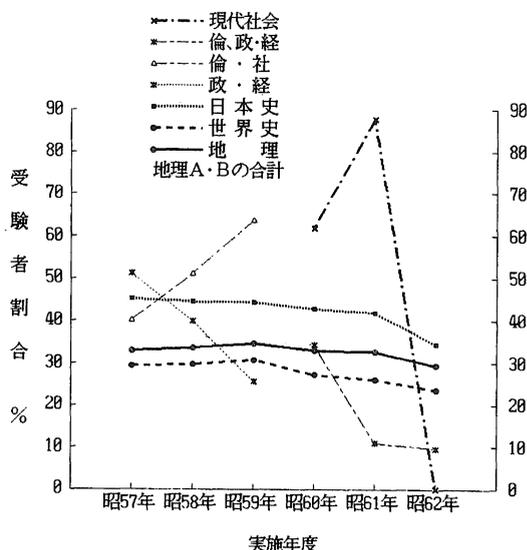


図8 共通一次試験における社会科の科目別受験者比率の推移 (大学入試センター年報-昭和61年度-より作成)

に削減された昭和62年度以降に入学してくる大学生からはこうした傾向はさらに増大してくるおそれがある。

### 5. 国名正解率からみた国別認識

大学生、高専生徒が世界のどのような国々の国名とそ

の位置を正しく認識しているかを考察してみよう。全調査者について国名正解率を示したのが図9および表8である。一般にいわれるように、大陸国家など面積の大きな国、島嶼国などで正解率が高い他、イタリアなど特徴ある半島や南アフリカなど位置がわかりやすい国々も正解率が高い。一方、カリブ海の小アンチル諸島や太平洋

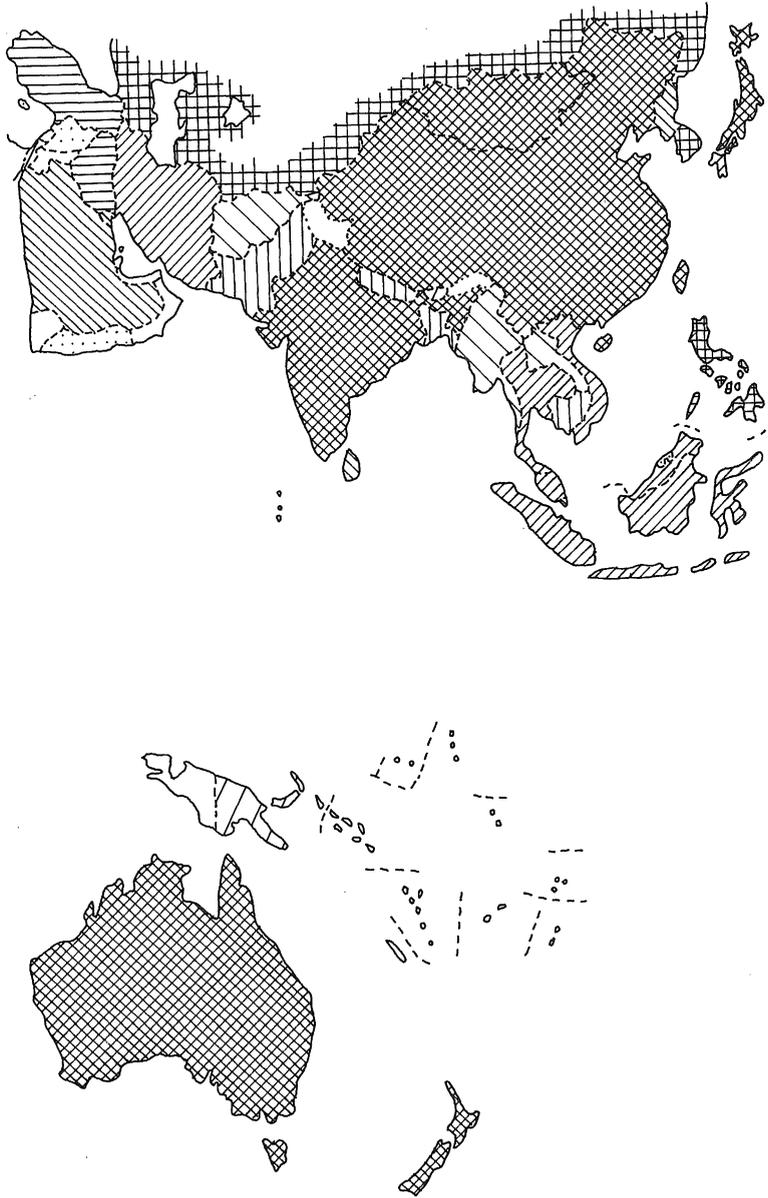


図9 全対象者(549名)の国別正解率

の小さな島国などは、最近10年間に新しく独立した国々が多いこと、面積が小さく位置関係がわかりにくいこと、教科書に記載されている分量も少ないということから、正解率が0に近い空白地帯といえる。

州別にみても、アジアでは東アジア、東南アジアの国々の知名度が比較的高く、サウジアラビアを除く西

アジアの国々の正解率が低い。イラン、イラク、アフガニスタンを混同したりシリア、ヨルダン、レバノンを混同している者が多くみられた。また、ブルネイ、モルジブなどは予想よりも知っている者が多い。アメリカではメキシコとパナマ間の地峡部の白紙解答が目につく。アフリカではエジプトと南アフリカが飛び抜けて高い正解

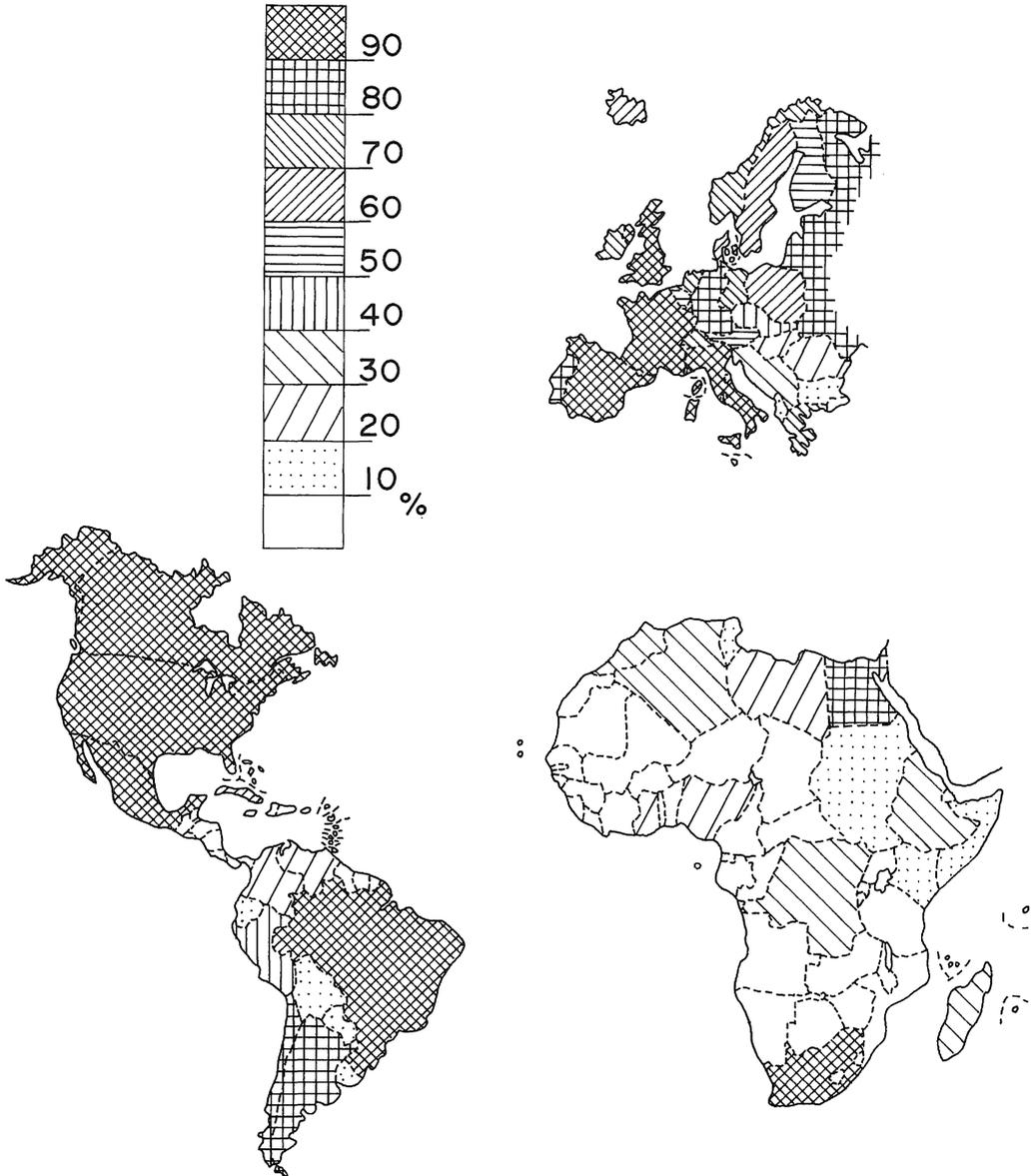


表8 正解率別にみた国名(全対象者—549名—)

正解率(%)	州 別 国 名				
90≦	日本・韓国 中国・モンゴル 台湾・インド	カナダ・メキシコ アメリカ合衆国 ブラジル	南アフリカ	オーストラリア ニュージーランド	イギリス・フランス スペイン・イタリア
80≦ <90	フィリピン ソ連	アルゼンチン チリ	エジプト		西ドイツ ポルトガル ソ連
70≦ <80	北朝鮮 シンガポール スリランカ サウジアラビア				ノルウェー アイルランド オランダ・東ドイツ スイス・ギリシア
60≦ <70	ベトナム・タイ マレーシア インドネシア イラン	キューバ			アイスランド ポーランド・デンマーク スウェーデン ルクセンブルク
50≦ <60	イラク トルコ				フィンランド ベルギー オーストリア
40≦ <50	カンボジア ネパール パキスタン バングラデシュ	ペルー			チェコスロバキア パチカン
30≦ <40	ラオス ビルマ アフガニスタン クウェート	パナマ	エチオピア アルジェリア モロッコ ザイール マダガスカル		ユーゴスラビア
20≦ <30	ブータン イスラエル	コロンビア ベネズエラ	リビア ガーナ ナイジェリア	バブア ニューギニア	リヒテンシュタイン ハンガリー・モナコ ルーマニア
10≦ <20	ブルネイ キプロス シリア イエメン民主	エクアドル ポリビア パラグアイ ウルグアイ	スーダン チュニジア ソマリア ケニア		ブルガリア アルバニア
5 ≦ <10	モルジブ ヨルダン レバノン アラブ首長国 イエメンアラブ	ジャマイカ ハイチ	マリ・リベリア コートジボアール 赤道ギニア タンザニア ザンビア モザンビーク	インドネシア	トルコ
< 5	バーレーン カタール オーマン	国名省略  17ヶ国	国名省略  30カ国	国名省略  8ヶ国	アンドラ サンマリノ マルタ

太字は面積百万平方キロメートル以上の国、又は島嶼国

表9 正解率別にみた国名（高校地理履修男子学生—196名—）

正解率(%)	州 別 国 名				
90 ≤	日本・韓国 中国・モンゴル 台湾・インド フィリピン	カナダ・メキシコ アメリカ合衆国 ブラジル・チリ アルゼンチン	エジプト 南アフリカ	オーストラリア ニュージーランド	イギリス・フランス スペイン・イタリア ポルトガル
80 ≤ < 90	北朝鮮・ベトナム シンガポール インドネシア サウジアラビア スリランカ ソ連				アイスランド ノルウェー・デンマーク スウェーデン・オランダ 西ドイツ・アイルランド ポーランド・東ドイツ ギリシア・ソ連
70 ≤ < 80	タイ・マレーシア イラン・イラク トルコ	キューバ			フィンランド・ベルギー ルクセンブルク・スイス
60 ≤ < 70	カンボジア ネパール パキスタン バングラデシュ				チェコスロバキア オーストリア
50 ≤ < 60	ラオス・ビルマ アフガニスタン	ベルー			ユーゴスラビア
40 ≤ < 50	イスラエル クウェート	パナマ ベネズエラ	エチオピア・リビア アルジェリア モロッコ・ザイール マダガスカル	パプア ニューギニア	リヒテンシュタイン ルーマニア モナコ バチカン
30 ≤ < 40	ブータン キプロス	コロンビア エクアドル	スーダン・ガーナ ナイジェリア		ハンガリー ブルガリア
20 ≤ < 30	ブルネイ シリア レバノン	ボリビア パラグアイ ウルグアイ	チュニジア ケニア		アルバニア
10 ≤ < 20	モルジブ ヨルダン アラブ首長国 イエメン民主 イエメンアラブ	ジャマイカ ハイチ	リベリア・ソマリア 赤道ギニア タンザニア ザンビア モザンビーク	インドネシア	サンマリノ トルコ
5 ≤ < 10	バーレーン オーマン	エルサルバドル ホンジュラス ニカラグア コスタリカ ガイアナ スリナム ドミニカ共和国 トリニダード トバコ	ジブチ・マリ コートジボアール 中央アフリカ アンゴラ・レソト ジンバブエ		アンドラ マルタ
< 5	カタール	国名省略  9ヶ国	国名省略  25カ国	国名省略  8ヶ国	なし

太字は面積百万平方キロメートル以上の国、又は島嶼国

表10 正解率別にみた国名（高校地理未履修女子学生—71名—）

正解率(%)	州 別 国 名				
90≦	日本・中国 インド ソ連	カナダ アメリカ合衆国	南アフリカ	オーストラリア	イギリス フランス
80≦ <90	韓国 モンゴル 台湾	メキシコ ブラジル		ニュージーランド	スペイン イタリア
70≦ <80	北朝鮮 フィリピン	チリ	エジプト		ポルトガル
60≦ <70	スリランカ サウジアラビア				アイルランド ソ連
50≦ <60	ベトナム シンガポール インドネシア	アルゼンチン			ノルウェー 西ドイツ オランダ・東ドイツ スイス・ギリシア
40≦ <50	タイ イラン イラク	キューバ			スウェーデン ルクセンブルク
30≦ <40	カンボジア マレーシア トルコ				アイスランド フィンランド デンマーク ベルギー ポーランド
20≦ <30	ラオス ビルマ				オーストリア バチカン
10≦ <20	パキスタン ネパール バングラデシュ アフガニスタン イスラエル クウェート	パナマ コロンビア ベネズエラ ペルー	アルジェリア モロッコ		チェコスロバキア ユーゴスラビア
5 = <10	ブータン		エチオピア リビア・ガーナ ザイール マダガスカル	バブア ニューギニア	ハンガリー ルーマニア モナコ
< 5	国名省略  12ヶ国	国名省略  23カ国	国名省略  42ヶ国	国名省略  9ヶ国	アンドラ・ブルガリア リヒテンシュタイン サンマリノ・マルタ トルコ・アルバニア

太字は面積百万平方キロメートル以上の国、又は島嶼国

率を示し、それに続く地中海地域の国々との間に大きなギャップがみられる。それ以外の国々は正解率が低く白紙解答も多い。オセアニアではアジア州の地図では高い正解率だったインドネシアをニューギニアなどと誤解しているがかなりみられた。ヨーロッパについてはやはり西欧諸国の知名度が高く、パチカン、モナコなど小さな国々もよく知られているといえる。北欧諸国も比較的正解率が高い。一方、東欧諸国はやや知名度が低いといえる。また、ソ連についてはアジアでの正解率とほぼ同じであるが、トルコはアジア州での正解率に比べて非常に低くなっており、白紙解答やブルガリア、アルバニアと誤答している者もいた。このように地図の範囲を変えると正解率が低くなるのは、和田(1986)のいうように世界地図が完全に頭に入っていないからであろう。

正解率50%を越える国を比較的好く知られている国と考え、その数は重複するソ連を1として50ヶ国となり平均正解国名数とほぼ等しくなる。もちろん、すでに述べてきたように高校で地理を学習した者としなない者との間には大きな差異が予想される。そこで国別正解数の最も高い集団として地理既履修大学男子、低い集団として地理未履修大学女子についてもそれぞれ国別正解率を求めてみた。その結果を表9、表10に示す。

双方の表を比べると明らかに地理既履修男子学生の方が国別正解率が高く、それぞれの国についての正解率は平均して20~30%高い値をとるようになる。正解率が50%以上のよく知られている国の数は既履修男子学生で60ヶ国、未履修女子学生で36ヶ国となり、やはり平均正解国名数(それぞれ67, 39)の結果を反映している。しかし正解率50%を越える国名数の差である24ヶ国のうち22ヶ国がアジア・ヨーロッパの国であり、アフリカ、アメリカ、オセアニア州では国別正解率の増加は認められるものの、半数以上の者が知っている国の数はほとんど変わらない。いいかえれば、地理を学習した学生はアジア・ヨーロッパで知っている国の数を増加させているということがいえよう。

高校から大学へと成長するにつれて国名正解数や国別正解率がどのように伸びてくるかという、地名認知能力の学習効果についてみる。長崎(1987)は中・高生について筆者と同様の「国名クイズ」を世界の70ヶ国について実施し、その結果を報告している。それによると、正解国名数は中学二年生で平均約14ヶ国、地理履修前の高校一年生で約30ヶ国、高校生の正解率50%以上の国は25ヶ国となっている。これと本報告における大学生のものを比べてみると、高校地理未履修女子大生の場合には地名認知力の向上はあまり顕著ではない。しかし、地理

既履修の学生にみる地名認知力の向上は非常に大きいといえる。ただ、正解率50%を越える国々については、やはりアジア、ヨーロッパの国でその数を増加させている。山口(1979)の調査によると高校生の興味・関心が強いのは西ヨーロッパ、アジア、アングロアメリカの順で高学年になるほどアジアへの関心が高まっているという。いずれにしても、高校で地理を学習することによって国名・その位置を覚える地名認知力は着実に伸びるということはいえる。

高校卒業段階までにどの程度の国々を正しく理解できればよいのかという教育目標については議論の別れるところであるが、長崎(1987)もいうように安易な暗記中心の地理教育を避けるため「教育地名」などを決めるのも一案であろう。その数は国別正解率などからみて、高校終了段階で50~60ヶ国程度が妥当ではないかと推測される。

## 6. ま と め

大学生を中心とした国名あてアンケート調査の分析から地名認知力について考察を行ってきた。その結果は次のようにまとめることができる。

- (i) 大学生が国名とその位置を正しく認識している国は平均して55ヶ国、大半の学生は40~60ヶ国である。
- (ii) 国名認知力には男女間に明らかな差異がみられ、女子の方が国名認知、位置関係のとらえかたが苦手であるといえる。
- (iii) 高校の授業あるいは入試のための高校地理学習の経験のある者は経験のない者より国名認知力がかなり高い。したがって、国名認知力の向上にはたず高校地理の役割は大きいといえる。
- (iv) 中学、高校、大学と成長するにつれて国名認知力は着実に向上してきており、地理学習の成果があらわれてきているが、国名認知はアジア、ヨーロッパの国々についてだけ大きく伸びており、アフリカ、中南米の国々にたいする認知力の増加は少ない。
- (v) 国名がわかってもその位置関係が不明確な国がかなりある。ふだんから地図帳と親しむようにするとか、マスコミなどの海外報道においても正しい位置を示す地図の明示がかかせないであろう。

国際化が叫ばれている現在、世界の国々にたいして国名を知ることや正確な位置を理解することは最小限必要であろう。こうした国名認知力を向上させるために、高校地理の学習がはたず役割は大きいといえる。しかし、高校の指導要領の改訂や入試制度の変革によって高校で

地理を履修しない生徒が今後急増してくることは確実であろう。したがって、こうした前提のもとで中学校社会科における地理的分野の指導内容の再検討を急ぐとともに、大学における一般教育を含む地理教育についても十分な配慮が必要であろう。

最後に本報告を書くにあたりアンケート調査に協力していただいた生徒、学生の皆さんに深く感謝いたします。

## 文 献

- 大谷 猛夫(1984)：地理教育における地名の扱い。『続、教師のための地理教育論』 地理教育研究会編, pp. 45-52, 大明堂。
- 権田 雅幸(1988)：大学入試における「地理」の現状。『地理』 Vol. 33, No. 4, pp. 19-30.
- 大学入試センター(1988)：『大学入試センター年報, 昭和61年度』 274ps.
- 長崎 正(1987)：アンケートにみる地理学習への興味と関心。『地理』 Vol. 32, No. 9, pp. 88-95.

註<sup>(1)</sup> 『地理科学』 Vol. 38-2, 39-2, 40-2, 41-2, 42-2 (1983~1987)の「西南日本各大学卒業論文題目」より学部卒業生についてだけ集計した。教育学部系, 文学部系を中心とし一部に商学・経済学部などが含まれる。ただし、氏名で性別を判断したため若干の誤差がある。

- 正井 泰夫(1986)：世界地理学習と国際理解。『地理』 Vol. 31, No. 3, pp. 34-39.
- 山口 幸男(1979)：高校生の地理的世界認識の一端。『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』 Vol. 29, pp. 291-310.
- 矢野恒太郎記念会編(1983)：『日本国勢図会1983年版』 国勢社 559ps.
- 和田 盛二(1986)：地理学習における地図帳の活用。『地理』 Vol. 31, No. 3, pp. 142-147.